

令和7年度

シラバス

< 1年生 >



滋賀県立彦根東高等学校

※内容は予定です。変更する場合がありますので、授業等での先生方からの連絡をよく聞くこと。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[国語] 科

科目名	現代の国語		学年	類型・コース	単位数
			1	全	2
学習の目標	実社会において必要な国語の知識・技能を身に付け、それらを用いて文章の内容を的確に理解し、効果的に表現する方法を学ぶ。また他者と意見を伝え合う力を高め、言語を手掛かりとして論理的に思考する力を養う。				
使用教材	教科書	精選 現代の国語 (第一学習社)			
	副教材	入試頻出漢字＋現代文重要語彙 TOP2500 三訂版 (いづな書店)、新訂総合国語便覧 (第一学習社)、高校生のための現代文ガイダンス ちくま評論文の読み方 (筑摩書房)、読解評論文キーワード改訂版 (筑摩書房)			
評価	評価法	定期考査、小テスト (毎週)、パフォーマンス課題 (レポート発表、プレゼンテーション、グループ討議)、ノート、自学用課題などを材料として評価します。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	言葉の特徴やきまり、現代的な情報や語彙についての知識を備え、国語の特質を適切に理解し、生涯にわたる社会生活に生かしている。	
		2	思考・判断・表現	目的や状況に応じて文章を読解し、他者と話し合い、効果的な表現を模索する等の活動を通して、相互に伝え合う力を高め、自分の考えや社会生活について理解を深めている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言葉を効果的に使おうとしている。国語の価値を尊重して言語感覚を磨き、言葉を通じて積極的に他者と関わり、自分の考えを深めるために、自らの学習目標や学習過程を自己調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価 (A, B, Cの3段階) および評定 (1～5の5段階) にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
			観点1	観点2	観点3
4	人間と文化 教材：水の東西 【読むこと】(6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 論理的文章の構成を知る。 対比、例示などの関係性を理解する。 	中間考査 小テスト	中間考査 P課題	P課題
5 6	言葉と情報 教材：ものことば 【書くこと】(6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 筆者の主張を踏まえて、自分の言葉で表現する方法を学ぶ。 	中間考査 小テスト	中間考査 P課題	P課題
7	社会と人間 教材： グローバリズムの「遠近感」 【話すこと・聞くこと】 (6時間)	<ul style="list-style-type: none"> 現代的問題について調べ、発表し、自他の考えと比較する。 	期末考査 小テスト	期末考査 P課題	P課題

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
			観点1	観点2	観点3
7	科学と人間 教材：「文化」としての科学 【書くこと】（6時間）	・科学と実社会との関わりを理解し、 広く考え、まとめる。	中間考査 小テスト	中間考査 P課題	P課題
9	物事の捉え方 教材：「本当の自分」幻想 【読むこと】（8時間）	・本文内容を自己に引き付けて理解する。	中間考査 小テスト	中間考査 P課題	P課題
10	人間と文化 教材：無彩の色 【書くこと】（4時間）	・具体・抽象の関係性に注意して、主張 に説得力を持たせる方法を学ぶ。	中間考査 小テスト	中間考査 P課題	P課題
11	社会と人間 教材：不均等な時間 【話すこと・聞くこと】 （8時間）	・近代化、合理化などのテーマについて 議論し、課題や今後の社会の展望を考 える。	期末考査 小テスト	期末考査 P課題	P課題
12	現代と社会 教材：ロビンソンの 人間と自然 【書くこと】（6時間）	・文章展開を意識し、的確に主張を伝え る方法を学ぶ。	期末考査 小テスト	期末考査 P課題	P課題

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
			観点1	観点2	観点3
12	社会と人間 教材：フェアな競争 【読むこと】（4時間）	・資本主義社会の競争原理について、 読解し、理解する。	学年末考査 小テスト	学年末考査 P課題	P課題
1	科学と人間 教材：生と死が創るもの 【書くこと】（4時間）	・対比的視点を意識して文章の作成を 行う。	学年末考査 小テスト	学年末考査 P課題	P課題
2	言葉と情報 教材：現代の「世論操作」 【話すこと・聞くこと】 （8時間）	・情報の扱われ方について、本文を参 考にしつつ、社会全体に目を向けて 考える。	学年末考査 小テスト	学年末考査 P課題	P課題
3	物事の捉え方 教材： 「生きもの」として生きる 【書くこと】（8時間）	・自らのあり方について考え、まとめ る。	P課題	P課題	P課題

担当者からのメッセージ

「現代の国語」では、説明的文章の読解を中心に、別の文章へ読みを広げたり、文章の細部を深く掘り下げたり、仲間と話し合ったりすることで、社会的な言語能力を養うことを目的とします。したがって、考えたり、書いたり、話したりする機会が多く含まれます。授業を聞き流すのではなく、その授業を受けてあなたが生み出したオリジナルな考えを、教室全体に発表してください。この授業を通して、自己のアイデアを表現することのよろこびを知ってもらいたいと思います。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[国語] 科

科目名	言語文化		学年	類型・コース	単位数
			1	全	3
学習の目標	近現代に至るまでの日本の言語文化に親しむとともに、国語の知識や技能を身につけ、読解の背景も含めて学び、理解を深める。さらに、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質や能力を育成する。				
使用教材	教科書	高等学校 精選 言語文化 第一学習社			
	副教材	新訂総合国語便覧（第一学習社）、3ステップオリジナル問題集 基本の古文（尚文出版）、3ステップオリジナル問題集 基本の漢文（尚文出版）、新しい古典文法（桐原書店）、精選漢文（尚文出版）、基礎から解釈 新しい古典文法演習ノート（桐原書店）、精選漢文基本練習ノート（尚文出版）、原色 小倉百人一首（文英堂）			
評価	評価法	定期考査、小テスト（毎週）、パフォーマンス課題（レポート発表、プレゼンテーション、グループ討議等）、ワークブック			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	言葉の特徴やきまり、古典の語彙、伝統的な言語文化等についての知識を備え、国語の特質を適切に理解している、	
		2	思考・判断・表現	目的や状況に応じて様々な作品を読解し、他者と話し合い、深い思考を養う等の活動を通して、伝統や文化について考え、現代に生かし伝え合う力を高め、人格の基盤を形成している。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	伝統文化の価値を尊重して言語感覚を磨き、積極的に言語文化への造詣を深め、読解力を高めるために、自らの学習目標や学習過程を自己調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・期末に観点別学習状況の評価（A, B, Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価方法		
			観点1	観点2	観点3
4	古文 古文入門 「絵仏師良秀」 「なよ竹のかぐや姫」 【読むこと】（6時間） 近現代 小説（一）「羅生門」 【読むこと】（6時間）	・文語の決まりを理解する。 ・古典の文章に慣れるとともに、人物造形の面白さを読み取り、現代へ継承されていることを知る。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・描写に沿って展開を捉え、登場人物の発言の論理の影響を読み取る。	中間考査 小テスト	中間考査 P課題	中間考査 P課題
5	古文 歌物語 「伊勢物語 芥川・東下り」 【読むこと】（6時間）	・文語の決まりを理解する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・歌物語の特徴と読み解き方を理解するとともに、世界観を味わう。	中間考査 小テスト	中間考査 P課題	中間考査 P課題

	漢文 漢文入門 「訓読に親しむ」 【読むこと】(1時間) 故事成語「漁夫之利」 【読むこと】(2時間)	・漢文を読むことの意義を知る。 ・訓読の決まりを理解する。 ・訓読に慣れるとともに、現代語の由来を知る。			
6	古文 歌物語 「伊勢物語 筒井筒」 【読むこと】(4時間) 漢文 故事成語「狐借虎威」 【読むこと】(2時間) 史伝「先從隗始」 【読むこと】(3時間)	・文語の決まりを理解する。 ・作品の歴史的・文化的背景を理解する。 ・物語中の和歌の役割を押さえ、歌物語の特徴と読み解き方を理解するとともに、世界観を味わう。 ・訓読の決まりを理解する。 ・訓読に慣れ、現代語の由来を知る。 ・時代背景を知るとともに登場人物が用いた論理の巧みさを読み解く。	期末考査 小テスト	期末考査 P課題	期末考査 P課題

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
7	古文 歌物語 「伊勢物語 あづさ弓」 【読むこと】(2時間) 漢文 史伝「完璧」 【読むこと】(2時間)	・文語の決まりと作品の背景を理解する。 ・和歌の役割をふまえ、歌物語の特徴に沿って、作品の世界観を味わう。 ・訓読に慣れ、現代語の由来を知る。 ・時代背景を知るとともに登場人物の考えや人物像を読み取る。	中間考査 小テスト	中間考査 P課題	中間考査 P課題
9	古文 日記 「土佐日記 門出・亡児・帰京」 【読むこと】(6時間) 随筆(二) 「徒然草 ある人、弓射ることを習ふに」 【読むこと】(2時間) 漢文 史伝「臥薪嘗胆」 【読むこと】(3時間)	・文語の決まりを理解する。 ・日記文学の表現方法と執筆意図を読み解くとともに、世界観を味わう。 ・文語の決まりと作品背景を理解する。 ・作者の批判的精神が提示する事柄を読み解く。 ・訓読に慣れるとともに、現代語の由来を知る。 ・登場人物の考えや主張を読み取る。	中間考査 小テスト	中間考査 P課題	中間考査 P課題
10	古文 随筆(二) 「徒然草 花は盛りに・九月二十日のころ」 【読むこと】(6時間) 漢文 漢詩「唐詩の世界」 【読むこと】(3時間)	・文語の決まりと作品背景を理解する。 ・作者の批判的精神が提示する事柄を読み解く。 ・漢詩のきまりを理解する。 ・当時の人々の思いを読み取り、鑑賞する。	中間考査 小テスト	中間考査 P課題	中間考査 P課題

11	<p>古文 和歌・俳諧 「万葉集・古今和歌集・新古今和歌集」 【読むこと】(6時間)</p> <p>近現代 詩「一つのメルヘン・自分の感受性くらい・I was born」 【書くこと】(6時間)</p> <p>漢文 思想「論語」 【読むこと】(4時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 和歌の表現技法と鑑賞のしかたを理解する。 それぞれの歌集の特色を捉える。 詩特有の表現技法や構成を理解する。 漢詩・和歌も含めて鑑賞して思ったことを、表現を工夫して文章にまとめる。 作品が日本社会へ及ぼした影響について知る。 講師の思想を理解する。 	<p>期末考査 小テスト</p>	<p>期末考査 P課題</p>	<p>期末考査 P課題</p>
----	--	---	----------------------	---------------------	---------------------

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
12	<p>古文 随筆(一) 「枕草子 九月ばかり・中納言参りたまひて」 【読むこと】(4時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文語の決まりを理解する。 作品の背景を知り、当時の人々の生活感覚や価値観を理解する。 	<p>学年末考査 小テスト</p>	<p>学年末考査 P課題</p>	<p>学年末考査 P課題</p>
1	<p>古文 軍記物語「平家物語」 【読むこと】(5時間)</p> <p>漢文 文章「桃花源記」 【読むこと】(2時間)</p> <p>近現代 小説(三)「城の崎にて」 【書くこと】(8時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文語の決まりを理解する。 争いを背景として生まれた思想や人間のありようを知る。 漢文の散文作品に慣れる。 言葉の由来となった理想郷のあり方を理解する。 語句量を増やし語彙を豊かにする。 作品の構成に注目して表現された死生観について考えを深めた上で、古来、文学作品に表れている世界観を捉え、死生観について自らの考えをまとめる。 	<p>学年末考査 小テスト</p>	<p>学年末考査 P課題</p>	<p>学年末考査 P課題</p>
2	<p>古文 和歌・俳諧「奥の細道」 【読むこと】(6時間)</p> <p>漢文 文章「離魂記」 【読むこと】(3時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 俳諧の決まりや俳諧紀行文の特徴を理解する。 作者の思想や心情を捉える。 漢文の散文作品に慣れる。 唐代伝奇小説の面白さを味わう。 	<p>学年末考査 小テスト</p>	<p>学年末考査 P課題</p>	<p>学年末考査 P課題</p>
3	<p>近現代 短歌・俳句「その子二十・こころの帆」 【読むこと】(1時間)</p> <p>小説(三)「空き缶」 【読むこと】(6時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 短歌・俳句の表現技法を理解する。 近代の代表作家の作品を味わう。 語句量を増やし語彙を豊かにする。 時間が交錯する展開を把握し、登場人物の心情を読み取る。 	<p>小テスト</p>	<p>P課題</p>	<p>P課題</p>

担当者からのメッセージ

「言語文化」では、上代から近現代に受け継がれてきた作品の読解を中心に、別の作品へ読みを広げたり、文章の背景となる文化について学んだり、仲間と話し合ったり表現したりすることで、言語や文化への理解を深めることを目的とします。したがって、文法事項を学んで現代語に訳すことをはじめとして、考えたり、書いたり、話したりする機会があります。授業に主体的に参加し、古典に対する教養を深め、近代や現代の文章から言語文化を学ぶことにより、人格形成の礎としましょう。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[地歴公民] 科

科目名	歴史総合		学年	類型・コース	単位数
			1	全	2
学習の目標	近現代の歴史の変化に関わる諸事情を学び、日本と世界の歴史を相互的な視野からとらえ、現在とのつながりを意識して多角的、多面的に考察する。このことを通して、社会的事象の歴史的な見方・考え方を養い、課題を迫り解決したりすることで、グローバル化する国際社会で主体的に活躍できる資質を育成することを目指す。				
使用教材	教科書	『明解 歴史総合 (帝国書院)』			
	副教材	『明解 歴史総合図説 シンフォニア (帝国書院)』 『新歴史総合研究ノート (啓隆社)』			
評価	評価法	定期考査、レポート、スピーチ発表、ノートなどで評価する。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめているか。	
		2	思考・判断・表現	歴史に関わる諸事情の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを多用して多方面・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察したことを的確に説明したり、議論したりしている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	歴史に関わる諸事情について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価 (A, B, C の3段階) および評定 (1～5 の5段階) にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4・5	1部 歴史の扉 2部 近代化と私たち 1章 江戸時代の日本と結びつく世界 2章 欧米諸国における近代化 3章 近代化の進展と国民国家形成	○資料の取り扱いと歴史叙述 ○江戸時代と結びつく世界 ○東アジア諸国の成熟と繁栄 ○西洋諸国の市民革命と産業革命 ○欧米諸国の近代化 ○帝国主義と西洋列強の海外進出	中間考査	中間考査 レポート	ノート レポート
6・7	4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 5章 近代化が進む日本と東アジア	○西洋列強諸国の進出を受けるアジア諸国 ○ヨーロッパ諸国の日本の関係、アヘン戦争 ○黒船の来航と日本の対応 ○新体制の模索と江戸幕府滅亡 ○近代国家としての日本の出発 ○清の近代化と日清戦争 ○列強の中国進出 ○日露戦争が与えた影響	期末考査	期末考査 レポート	ノート レポート

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
8 ・ 9 ・ 10	3部 国際秩序の変化や 大衆化と私たち 1章 第一次世界大戦と 日本の対応 2章 国際協調と大衆社会 の広がり 3章 日本の行方と第二次 世界大戦	○ドイツの挑戦とバルカン半島の緊張 ○総力戦となった第一次世界大戦と ロシア革命 ○国際秩序の変化や大衆化 ○ヴェルサイユ体制の成立 ○アジアにおける民族運動 ○ヨーロッパの復興と欧米の大衆社会 の成立 ○日本における大衆社会の形成 ○世界恐慌の影響 ○ファシズムの台頭	中間考査	中間考査 レポート	ノート レポート
10 ・ 11 ・ 12	3章 日本の行方と第二次 世界大戦 4章 再出発する世界と日 本	○政党政治の断絶と満州事変 ○日中戦争の始まり ○第二次世界大戦の展開 ○戦局の悪化と被害の拡大 ○第二次世界大戦の終結とその惨禍 ○戦後の新たな国際秩序と冷戦 ○日本撤退後の東アジア ○日本の改革と独立の回復	期末考査	期末考査 スピーチ 発表	ノート レポート

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
1 ・ 2 ・ 3	4部 グローバル化と私た ち 1章 冷戦で揺れる世界と 日本 2章 多極化する世界 3章 グローバル化のなか の世界と日本 現代的な諸課題の形成と展 望	○アメリカ・ソ連の緊張と緩和 ○冷戦下における日本の復興 ○第三勢力の形成と脱植民地化 ○中東戦争とパレスチナ問題 ○揺らぐアメリカと先進国の変化 ○「経済大国」日本の模索 ○経済発展に取り組むアジア・南米諸 国 ○イスラーム復興と冷戦への影響 ○冷戦の終結と変わる世界構造 ○超大国アメリカと中東情勢 ○国際環境の変化と日本 ○グローバル化による国際社会の 変容	学年末考 査	学年末考 査 レポート	ノート レポート

担当者からのメッセージ

近現代史を学ぶことを通して、中学校で学んだ知識をさらに深め、歴史的な視点から現代の諸課題にアプローチするための知見を獲得してください。近現代史の展開は大変ダイナミックです。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[地歴公民] 科

科目名	公共		学年	類型・コース	単位数
			1	普通	2
学習の目標	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図り、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。				
使用教材	教科書	「詳述公共」(実教出版)			
	副教材	フォーラム公共(東京法令出版)、詳述公共演習ノート(実教出版)			
評価	評価法	定期考査、レポート、スピーチ発表、ノート、リフレクションシートなどで評価する。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、および倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	
		2	思考・判断・表現	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	国家および社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評定(1~5の5段階)にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4 ・ 5	第1編 社会を作る 私たち 人間として よく生きる	<ul style="list-style-type: none"> ○人生における青年期の意義 ○青年期において直面する葛藤や欲求不満などの困難とその対処法 ○パーソナリティの理論や青年期の発達課題 ○働くことの意義と社会参加の意義 ○国際社会で生きるために、日本人が身につけるべき態度と能力 ○理想的な人間の生き方～ソクラテス、プラトン、アリストテレス ○各宗教が説いた、人間の生き方や社会のあり方について 	中間考査	中間考査 レポート	リフレクシ ョンシ ート ノート
6 ・ 7	人間として よく生きる	<ul style="list-style-type: none"> ○社会の改良や改革を唱えた、功利主義と社会主義の思想家たち ○他者について、公共性の確立について思索した思想家たち ○社会の公正なあり方について思索した思想家たち 	期末考査	期末考査 レポート	リフレクシ ョンシ ート レポート ノート

【2学期】

月	学習項目・ 単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
8 ・ 9 ・ 10	社会とは何か 民主国家に おける 基本原理 第2編 日本国憲法 の基本的 性格	○差別や偏見を是正するための取り組みや その背景にある考え方 ○基本的人権の歴史的発展について ○民主政治の意義と課題について ○各国の政治制度について ○憲法の最高法規性について ○こんにちの安全保障政策の課題について ○人権に関する現実社会の課題について ○新しい人権と公共の福祉	中間考査	中間考査 レポート	リフレクシ ョンシート ノート
11 ・ 12	日本の政治 機構と 政治参加 現代の 経済社会 経済活動の あり方と 国民福祉	○官主導社会とその課題について ○裁判員制度や検察審査会について ○各選挙制度の特徴と課題について ○政治参加の課題について ○20世紀以降の資本主義経済の変容 ○市場経済の機能と限界 ○経済社会における金融の意義や役割 ○財政政策, 租税の仕組みについて ○これからの中小企業や農業の姿 ○持続可能な社会をめざす取り組み ○法整備と消費者の責任について ○今後の日本の社会保障制度について	期末考査	期末考査 レポート	リフレクシ ョンシート レポート ノート

【3学期】

月	学習項目・ 単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
1 ・ 2 ・ 3	国際政治の 動向と課題 国際経済の 動向と課題 第3編 持続可能な 社会づくり の主体とな る私たち	○国際政治や国際法とは ○国家安全保障と国際連合 ○冷戦による対立構造と安全保障 ○差別・抑圧, 紛争や内戦などの問題を解 決するために ○国際経済体制の変化 ○経済のグローバリゼーションがもたらしたメ リットとデメリット ○世界の貧困問題の解決に向けて ○社会的な見方・考え方を総合的に働か せ, 現実社会の諸課題を探究する	学年末考査	学年末考査 スピーチ発 表	リフレクシ ョンシート スピーチ発 表 ノート

担当者からのメッセージ

教科書や副教材の図説はもちろんですが、本や新聞など紙媒体の情報をしっかり「読んで」ください。情報を「見る」のではなく「読んで」、私なら「どう思うか、どう行動するか」考えてください。それが出発点です。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[地歴公民] 科

科目名	公共		学年	類型・コース	単位数
			1	GS	1
学習の目標	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図り、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深める。				
使用教材	教科書	「詳述公共」(実教出版)			
	副教材	フォーラム公共(東京法令出版)、詳述公共演習ノート(実教出版)			
評価	評価法	定期考査、レポート、スピーチ発表、ノート、リフレクションシートなどで評価する。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、および倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	
		2	思考・判断・表現	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	国家および社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評定(1~5の5段階)にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4 ・ 5	第1編 社会を作る 私たち 人間として よく生きる	○人生における青年期の意義 ○青年期において直面する葛藤や欲求不満などの困難とその対処法 ○パーソナリティの理論や青年期の発達課題 ○働くことの意義と社会参加の意義 ○国際社会で生きるために、日本人が身につけるべき態度と能力 ○理想的な人間の生き方～ソクラテス、プラトン、アリストテレス ○各宗教が説いた、人間の生き方や社会のあり方について	中間考査	中間考査 レポート	リフレクシ ョンシ ート ノート
6 ・ 7	人間として よく生きる	○社会の改良や改革を唱えた、功利主義と社会主義の思想家たち ○他者について、公共性の確立について思索した思想家たち ○社会の公正なあり方について思索した思想家たち	期末考査	期末考査 レポート	リフレクシ ョンシ ート レポート ノート

【2学期】

月	学習項目・ 単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
8 ・ 9 ・ 10	社会とは何か 民主国家に おける 基本原理 ・ 第2編 日本国憲法 の基本的 性格	○差別や偏見を是正するための取り組みや その背景にある考え方 ○基本的人権の歴史的発展について ○民主政治の意義と課題について ○各国の政治制度について ○憲法の最高法規性について ○こんにちの安全保障政策の課題について ○人権に関する現実社会の課題について ○新しい人権と公共の福祉	中間考査	中間考査 レポート	リフレクシ ョンシート ノート
11 ・ 12	日本の政治 機構と 政治参加 現代の 経済社会 経済活動の あり方と 国民福祉	○官主導社会とその課題について ○裁判員制度や検察審査会について ○各選挙制度の特徴と課題について ○政治参加の課題について ○20世紀以降の資本主義経済の変容 ○市場経済の機能と限界 ○経済社会における金融の意義や役割 ○財政政策, 租税の仕組みについて ○これからの中小企業や農業の姿 ○持続可能な社会をめざす取り組み ○法整備と消費者の責任について ○今後の日本の社会保障制度について	期末考査	期末考査 レポート	リフレクシ ョンシート レポート ノート

【3学期】

月	学習項目・ 単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
1 ・ 2 ・ 3	国際政治の 動向と課題 国際経済の 動向と課題 ・ 第3編 持続可能な 社会づくり の主体とな る私たち	○国際政治や国際法とは ○国家安全保障と国際連合 ○冷戦による対立構造と安全保障 ○差別・抑圧, 紛争や内戦などの問題を解 決するために ○国際経済体制の変化 ○経済のグローバリゼーションがもたらしたメ リットとデメリット ○世界の貧困問題の解決に向けて ○社会的な見方・考え方を総合的に働か せ, 現実社会の諸課題を探究する	学年末考査	学年末考査 スピーチ発 表	リフレクシ ョンシート スピーチ発 表 ノート

担当者からのメッセージ

教科書や副教材の図説はもちろんですが、本や新聞など紙媒体の情報をしっかり「読んで」ください。情報を「見る」のではなく「読んで」、私なら「どう思うか、どう行動するか」考えてください。それが出発点です。

令和6年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[数学] 科(GS)

科目名	GS 数学 I		学年	類型・コース	単位数
			1	全	4
学習の目標	基本的な知識の習得と技能の習熟を図り、国際的な視野に立ち、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書	「NEXT 数学 I」「NEXT 数学 II」(数研出版)			
	副教材	「CONNECT 数学 I +A」「CONNECT 数学 II +B」(数研出版) 「FocusGold 6thEdition 数学 I +A」(啓林館) 「FocusGold 5thEdition 数学 II +B+C」(啓林館)			
評価	評価法	定期考査、学力考査、課題考査、確認考査、課題の取組状況および提出状況などで評価する。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	
		2	思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	数学的な考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評定(1~5の5段階)にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4	数学 I 第1章『数と式』	*数を実数まで拡張する意義を理解する。 *式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できる。	中間考査 課題	中間考査 課題	課題
5	数学 I 第2章『集合と命題』	*集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に利用できる。	期末考査 課題	期末考査 課題	課題
6	数学 I 第3章 2次関数 第1節 関数とグラフ 第2節 2次方程式と 2次不等式	*2次関数とそのグラフについて理解する。 *2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できる。			
7	5. 2次方程式 6. グラフと2次方程式				

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
7	数学Ⅰ 第3章 2次関数 第2節 2次方程式と	*2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できる。	中間調査 学力調査 確認調査 課題	中間調査 学力調査 確認調査 課題	課題
8	2次不等式 7. グラフと2次不等式				
9	数学Ⅰ 第4章 図形と計量				
10	数学Ⅱ 第1章 式と証明 課題学習	*整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解する。 *等式や不等式が成り立つことを証明できる。	期末調査 確認調査 課題	期末調査 確認調査 課題	課題
11	数学Ⅱ 第2章 複素数と方程式	*方程式についての理解を深める。 *数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くことができる。 *因数分解を利用して高次方程式を解くことができる。			
12					

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
12 ～ 2	数学Ⅱ 第3章 図形と方程式	*座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できる。	学年末考 査 課題考 査 確認考 査 課題	学年末考 査 課題考 査 確認考 査 課題	課題
3	数学Ⅰ 第5章 データの分析 課題学習	*統計の基本的な考えを理解する。 *統計の考えを用いて、データを整理・分析し傾向を把握できる。			

担当者からのメッセージ

計算力を向上させるための努力と工夫を怠らず、日々の予習・復習を着実にやること。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[数学] 科(GS)

科目名	GS 数学A		学年	類型・コース	単位数
			1	全	2
学習の目標	基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深める。国際的な視野に立ち、事象を数学的に考察する能力(論理的な思考力)を培い、数学のよさを認識できるようにし、さらに活用する態度を育てる。				
使用教材	教科書	「NEXT 数学 A」 (数研出版)			
	副教材	「CONNECT 数学 I +A」 (数研出版) 「FocusGold 5th Edition 数学 I +A」 (啓林館)			
評価	評価法	定期考査・学力考査・課題考査・確認考査、課題の取組状況および提出状況などをもとに評価する。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	
		2	思考・判断・表現	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数量の関係を数式化、図式化して、事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしたりしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価 (A、B、C の3段階) および評定 (1～5 の5段階) にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	*場合の数の基本的な考え方について理解する。	中間考査 課題	中間考査 課題	課題
5	1. 集合の要素の個数 2. 場合の数 3. 順列 4. 組合せ	*様々な場合の数を求めるための公式について、その公式が導出される過程についても理解し、様々な場合の数に応用できるような力を培う。			

5 ～ 7	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 4. 組合せ 第2節 確率 5. 事象と確率 6. 確率の基本性質 7. 独立な試行と確率	*確率の意味とその表し方や性質について理解し、様々な事象の確率を求められるようにする。 *試行の独立について理解を深め、反復試行の確率を求められるようにする。	期末考查 課題	期末考查 課題	課題
-------------	--	--	------------	------------	----

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
7 ～ 9	第1章 場合の数と確率 第2節 確率 8. 条件付き確率 第1章 場合の数と確率 第2節 確率 8. 条件付き確率 9. 期待値	*前の学習項目に加え、条件付き確率について理解し、それを求められるようにする。 *1学期の学習項目に加え、条件付き確率(原因の確率)や期待値について理解し、それを求められるようにするとともに、様々な判断に用いるような姿勢を養う。	中間考查 学力考查 確認考查 課題	中間考查 学力考查 確認考查 課題	課題
10 ～ 12	第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	*平面図形や空間図形の様々な性質について、その証明を含めて理解し、それを様々な事象の考察や、新たな性質の証明などに活用できるような力を培う。	期末考查 確認考查 課題	期末考查 確認考查 課題	課題

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
12 ～ 3	第3章 数学と人間の活動	*人間の様々な活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深める。 *現実の事象を、数学を用いて考察できる力を培う。	学年末考查 課題 確認考查 課題	学年末考查 課題 確認考查 課題	課題

担当者からのメッセージ

計算力を向上させるための努力と工夫を怠らず、日々の予習・復習を着実にやること。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[理]科

科目名	化学基礎		学年	類型・コース	単位数
			1	全	2
学習の目標	物質に対する理解を深める過程で、化学的に探究する基礎的能力や態度を養い、基本的概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につける。				
使用教材	教科書	化学基礎（数研出版）			
	副教材	標準セミナー化学基礎 /サイエンスビュー化学総合資料（実教出版）			
評価	評価法	定期考査の点数、実験実習の取組状況、および実験レポート[実R]・Teams 課題[T課]・プリント課題・自主学習兼問題集用ノートなどの提出物の内容をもとに評価する。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	化学に関する事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	
		2	思考・判断・表現	化学的な事物・現象に問題を見出し、研究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A, B, Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめる。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4	物質の構成	純物質と混合物・物質とその成分 物質の三態と熱運動・元素記号	中間考査	中間考査 T課	生徒観察 課題
5	物質の構成粒子	原子・イオン・周期表、考査前復習 実験「基本操作」「1族元素と同素体」	中間考査	中間考査 T課・実R	実験 ノート
6	粒子の結合	化学結合と結晶	期末考査	期末考査 T課	課題
7	粒子の結合	考査前復習	期末考査	期末考査	ノート

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
7	物質と化学反応式	化学の基礎法則・有効数字と原子量 実験「(例) SDGs 美味しい水」	中間考査	中間考査 実R	生徒観察 実験
8		夏休み課題「物質図録」「コラム」		T課	夏課題
9	物質と化学反応式	物質・濃度・化学反応式 実験「化学反応における量的関係」	中間考査	中間考査 T課・実R	実験 課題
10	酸と塩基の反応	考査前復習・酸と塩基 実験「身の回りの酸と塩基」	中間考査	中間考査 T課・実R	実験 ノート
11	酸と塩基の反応	pH・中和反応・塩 実験「中和滴定」「塩の性質」	期末考査	期末考査 T課・実R	実験 課題
12	酸と塩基の反応	考査前復習	期末考査	期末考査	ノート

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
12	酸化還元反応	酸化と還元・酸化剤と還元剤 冬休み課題「酸化還元」	学年末考査	学年末考査 T課	生徒観察 冬課題
1	酸化還元反応	金属の酸化還元反応 実験「酸化剤と還元剤」	学年末考査	学年末考査 T課・実R	実験 課題
2	酸化還元反応	酸化還元反応の利用・考査前復習 実験「電池」	学年末考査	学年末考査 T課・実R	実験 課題
3	酸化還元反応	実験「電気分解と燃料電池」 春休み課題「1年の復習」	学年末考査	学年末考査	ノート

担当者からのメッセージ

授業は、穴埋め式プリントを基に、資料集/教科書(タブレットからも閲覧可)や電子黒板/書画カメラ等の視聴覚設備を用いて行います。主体的に取り組む工夫をしてください。Teams 課題は、授業で生じる疑問や発展的内容から出題予定です。実験は、予習が大切でイメージを持って取り組めるようにしてください。定期考査時に提出してもらおう自主学習兼問題集用ノートは、工夫と努力を評価しますが、日頃から化学と向き合う時間をとっているかどうかの確認にもなります。プリント課題を含めて丁寧に取り組み、君たちの「化学力」を向上させましょう。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[理] 科

科 目 名	生物基礎		学年	類型・コース	単位数
			1	全	2
学 習 の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 				
使 用 教 材	教科書	高等学校 生物基礎 (啓林館)			
	副教材	新課程版スクエア最新図説生物(第一学習社)、リードα生物基礎(数研出版)			
評 価	評価法	定期考査、実験レポート、問題集ノート、発問評価、パフォーマンス(P)課題(課題プリント、単元末評価課題)			
	評価 観点 の 趣 旨	1	知識・技能	生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	
		2	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	
		3	主体的に学習に取り 組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4	第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性と 多様性	<ul style="list-style-type: none"> 生物は多様でありながら共通性をもっていることや細胞および生物の構造について理解する。 生物の活動に必要なエネルギーの出入りと、生物に必要な物質の合成や分解について理解する。 	中間考査 実験観察	中間考査 実験観察 実験レポート P課題 発問評価	実験観察 実験レポート P課題 問題集ノート
5	A 生物がもつ特徴 B 細胞と生物 C 細胞の構造				
6	第2節 生物とエネルギー A 代謝とエネルギー B 代謝と酵素 C 光合成と呼吸		期末考査 実験観察	期末考査 実験観察 実験レポート P課題 発問評価	実験観察 実験レポート P課題 問題集ノート
7					

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
9	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝情報とDNA A DNAの構造 B DNAの複製 C 遺伝情報の分配	<ul style="list-style-type: none"> ・遺伝情報をないう物質としてのDNAの特徴について理解する。 ・DNAが複製され分配されることにより、遺伝情報が伝えられることを理解する。 ・DNAの情報に基づいてタンパク質が合成されることを理解する。 	中間考査 実験観察	中間考査 実験観察 実験レポート P課題 発問評価	実験観察 実験レポート P課題 問題集ノート
	第2節 遺伝情報とタンパク質の合成 A 遺伝子の発現とタンパク質 B タンパク質の合成 C 遺伝情報と遺伝子発現				
10	第3章 神経系と内分泌系による調節 第1節 情報の伝達 A 体液と恒常性 B 自律神経系と恒常性 C 内分泌系 D ホルモン分泌の調節	<ul style="list-style-type: none"> ・体内環境の恒常性が保たれているしくみを理解する。 ・体内環境の維持に自律神経とホルモンがかかわっていることを理解する。 	期末考査 実験観察	期末考査 実験観察 実験レポート P課題 発問評価	実験観察 実験レポート P課題 問題集ノート
	第2節 体内環境の維持のしくみ A 血糖濃度の調節 B ヒトの体温調節 C 水分量の調節				
11	第4章 免疫 第1節 免疫の働き A 生体防御 B 自然免疫 C 獲得免疫	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫とそれにかかわる物質や細胞の働きについて理解する 			
12	D 免疫と病気				

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
1	第5章 植生と遷移 第1節 植生と遷移 A 環境 B 植生の遷移 C 遷移とバイオーム D 日本のバイオーム	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上には様々な植生が見られ、植生は長期的に移り変わっていくことを理解する。 ・気候に適応した様々なバイオームが成立していることとその特徴を理解する。 	学年末考査 実験観察	学年末考査 実験観察 実験レポート P課題 発問評価	実験観察 実験レポート P課題 問題集ノート
	第6章 生態系とその保全 第1節 生態系と生物の多様性 A 生態系における生物どうしのつながり B 種多様性と生物間関係				
3	第2節 生態系のバランスと保全 A 生態系のバランスと変動 B 生態系の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系のバランスについての理解と生態系保全の重要性を理解する。 			

担当者からのメッセージ

考査の採点時には、観点別問題ごとの得点を記録し評価に活用する。また、実験観察の取り組み状況、問題集ノートの取り組み状況、実験レポートのスケッチ・記録・考察等も観点別評価に反映する。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[外国語] 科

科目名	英語コミュニケーション I		学年	類型・コース	単位数
			1	全	3
学習の目標	「日常的な話題」および「社会的な話題」を通じて、英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。また、必要な情報や概要、相手の考えなどを的確に理解したり、論理性に注意して適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。				
使用教材	教科書	CROWN English Communication I (三省堂)			
	副教材	「必携英単語 LEAP」(数研出版)、「英語の発音ノート」(数研出版)、「英語の構文 150」(美誠社)、「Keys to Listening 2」(数研出版)			
評価	評価	定期考査、課題考査、学力考査、小テスト、パフォーマンス課題(音読テスト、プレゼンテーションなど)、ノートなどの提出物、振り返りシートなどで評価します。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	英語使用時に必要な語彙や表現の意味や働きを理解できている。また、それらを正しく使用する技能を身に付けている。	
		2	思考・判断・表現	知識および技能を活用して課題を解決するのに必要な思考力・判断力・表現力が身に付いている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能および思考力・判断力・表現力などを身に付ける取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評定(1~5の5段階)にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目 ・ 単元	学習内容 * 言語材料 ◎ 単元の目標 ① 各 lesson の言語材料に関する知識を身に付け、適切に用いることができる。 ② 各 lesson の[テーマ]に関する<文章の種類>を題材に、意欲的にコミュニケーションを行うことができる。	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4	Lesson 1 The Blue White Shirt	* to 不定詞/動名詞 目標: ①、②[言語・日本文化] <スピーチ>	①③ ⑥	①⑥	③④ ⑤⑥
5	Lesson 2 Does It Spark Joy?	* 現在完了/現在完了進行形/助動詞 目標: ①、②[生き方・生活] <エッセイ>	①③ ⑥	①⑥	③④ ⑤⑥
6	Lesson 3 Hatching the Egg of Hope	* 関係代名詞/分詞の形容詞的用法/受動態 目標: ①、②[芸術・国際交流] <エッセイ>	①③ ⑥	①⑥	③④ ⑤⑥
7	Lesson 4 Digging into Mystery	* 過去完了・過去完了進行形/関係代名詞 what / S+V+O(疑問詞節/if 節) 目標: ①、②[歴史・日本文化] <プレゼンテーション>	①③ ⑥	①⑥	③④ ⑤⑥

【2学期】

月	学習項目 ・単元	学習内容	評価記録		
			観点 1	観点 2	観点 3
7 8 9	Lesson 5 Roots & Shoots	*分詞構文/It ... that(形式主語)/同格 目標:①、②[環境・共生] <インタビュー>	①② ③⑥	①② ⑥	③④ ⑤⑥
10	Lesson 6 You and Your Smartphone	*関係副詞/S+V+O+C(原形不定詞・分詞) 目標:①、②[科学技術] <雑誌記事>	①③ ⑥	①⑥	③④ ⑤⑥
11	Lesson 7 Living in Alaska	* seem to..., It seems that ... / S+is+C(that 節) / S+V+C(分詞) 目標:①、②[自然・異文化] <講演>	①③ ⑥	①⑥	③④ ⑤⑥
12	Lesson 8 Not So Long Ago	* 仮定法過去/S+V+O+O(疑問詞節)/付帯状況を表す with 目標:①、②[平和・歴史] <レクチャー>	①③ ⑥	①⑥	③④ ⑤⑥

【3学期】

月	学習項目 ・単元	学習内容	評価記録		
			観点 1	観点 2	観点 3
12 1	Lesson 9 Our Lost Friend	*受動態の完了形/助動詞+be+過去分詞/関係代名詞 の非制限用法 目標:①、②[文化遺産] <論説文>	①② ③⑥	①② ⑥	③④ ⑤⑥
2 3	Lesson 10 Good Ol' Charlie Brown	* 仮定法過去完了/used to ..., would ... /形式目的語 it 目標:①、②[生き方・芸術] <エッセイ>	①③ ⑥	①⑥	③④ ⑤⑥

担当者からのメッセージ

4技能(5領域)を意識したさまざまな活動を行うことにより内容の理解を深めていきます。また、副教材の確認テスト・課題提出を随時行うことにより、学力の伸長を図ります。予習→授業→復習のサイクルを大切に、こつこつと学習を継続しましょう。

★進度については、生徒の学習状況により変更する場合があります。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[外国語] 科(GS)

科目名	GS 論理・表現 I		学年	類型・コース	単位数
			1	全	3
学習の目標	国際的な視野を持ち、英語を通じて主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。また、意見や事実を適切な表現で話したり書いたりする能力、論理的な展開かつ伝わりやすい英語で発表ができる技能や知識を養う。				
使用教材	教科書	MAINSTREAM English Logic and Expression I (増進堂)			
	副教材	「新訂版 チャート式シリーズ GRAND EARTH 基礎からの新々総合英語」(数研出版)、「新訂版 基礎からの新々総合英語 GRAND EARTH English Grammar in 48 Stages Workbook」(数研出版)、「英語の発音ノート」(数研出版)、「英語の構文 150」(美誠社)、「Keys to Listening 2」(数研出版)			
評価	評価法	定期考査、課題考査、学力考査、小テスト、パフォーマンス課題(学期ごとのスピーチ、プレゼンテーション)、課題の取り組み状況を総合的に判断して評価します。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	基本的な英文法を理解し、それぞれの文法事項を使った簡単な表現を理解できている。また、関連する重要表現を覚えられている。	
		2	思考・判断・表現	学習した知識・技能を活用し、自然で文法的に正しい英語で表現できている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	与えられた課題に取り組むとともに、自ら進んで学習する姿勢を示している。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価(A, B, Cの3段階)および評定(1～5の5段階)にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容 ◎単元の目標 ①各単元における基本的な知識を身につける。 ②各単元における文法事項を用いて、自然で文法的に正しい英語で表現することができる。	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4	教科書：Lesson 1・2 チャート：第0～2章	文の要素・文の種類・文型	①③ ④	①	③④
5	教科書：Lesson 3・4 チャート：第2～5章	文型・時制・助動詞	①③ ④	①	③④

6	教科書：Lesson 5・6	時制・助動詞	①③	①	③④
7	チャート：第4～5章		④		

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点 1	観点 2	観点 3
7	教科書：Lesson 7	態	①②	①	③④
8	チャート：第6章		③④		
9	教科書：Lesson 8・9 チャート：第7・8章 夏期課題スピーチ	不定詞・動名詞	①③ ④	①② ⑤	③④ ⑤
10	教科書：Lesson 10・11 チャート：第9・10章	分詞・関係詞	①③ ④	①	③④
11	教科書：Lesson 12・13 チャート：第10・11章	関係詞・比較	①③ ④	①	③④
12	教科書：Lesson 13 チャート：第11章	比較	①③ ④	①	③④

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点 1	観点 2	観点 3
12 1	教科書：Lesson 14・15 チャート：第12～15章 冬期課題スピーチ	仮定法・否定・特殊構文	①② ③④	①② ⑤	③④ ⑤
2 3	教科書：Lesson 16・17 チャート：第16・17章	特殊構文・接続詞	①③ ④	①②	③④

担当者からのメッセージ

5領域のうちの特に3つの領域（話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くこと）における技能を養うために、英語の基本となる規則や表現を学んでいきます。様々な表現に触れ、言語の面白さを感じていきましょう。

★進度については、生徒の学習状況により変更する場合があります。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[保健体育] 科

科目名	体育		学年	類型・コース	単位数
			1	全	2
学習の目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する				
使用教材	教科書	新高等保健体育（大修館書店）			
	副教材				
評価	評価法	授業中の行動観察、記録会や試合・発表会の結果分析、ワークシート、ノート、スキルテスト、レポート課題(体育理論)			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。	
		2	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A，B，Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4	体づくり運動	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動 東高体操、集団行動 	行動観察	行動観察	行動観察
5					
6	陸上競技、器械運動 【選択1期】*どちらかの種目を選択する ・短距離走、ハードル走、リレー ・マット運動	<ul style="list-style-type: none"> グループ学習 基礎技術の習得 記録会、発表会 	行動観察	行動観察	行動観察
7			スキルテスト	ワークシート	ワークシート
			記録会・発表会の結果分析	ノート	ノート

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
9 10	球技 【選択2期】 ・バレーボール ・ハンドボール ・テニス	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習 ・基礎技術の習得 ・ルールの理解 ・ゲーム ・ゲーム運営 	行動観察 スキルテスト 試合の 結果分析	行動観察 ワークシー ト ノート	行動観察 ワークシー ト ノート
11 12	ダンス、武道 【選択3期】 ・ダンスI ・柔道I ・剣道I	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎技術の習得 ・対人練習（剣道・柔道） ・発表会に向けたグループ学習（ダンス） 			

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
12	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの発祥と成立 ・スポーツ文化の発展と現代社会 ・オリンピック・パラリンピックと国際社会 ・スポーツの経済効果とスポーツ産業 	レポート 課題	行動監察 ワークシー ト	行動監察 ワークシー ト
1 2 3	体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに求められる高潔さ ・持続可能性からみたスポーツと環境 			
	球技 【選択4期】 ・バスケットボ ール ・バレーボール ・テニス	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習 ・基礎技術の習得 ・ルールの理解 ・ゲーム ・ゲーム運営 	行動観察 スキルテスト 試合の 結果分析	行動観察 ワークシー ト ノート	行動観察 ワークシー ト ノート

担当者からのメッセージ

体育の授業を通して、仲間と協力しながらコミュニケーション能力を培い、運動技能や知識の向上を目指し、積極的に活動に取り組もう。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[保健体育] 科

科目名	保健		学年	類型・コース	単位数
			1	全	1
学習の目標	心と体を一体として捉え、生涯を通じて心身の健康を保持増進するための資質・能力を育成する。				
使用教材	教科書	新高等保健体育（大修館書店）			
	副教材				
評価	評価法	定期考査、ノート、ワークシート、行動観察			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	
		2	思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A, B, Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4	【現代社会と健康】 1. 日本における健康課題の変遷 2. 健康の考え方と成り立ち 3. ヘルスプロモーションと健康にかかわる環境づくり 4. 健康に関する意思決定・行動選択 5. 現代における感染症の問題	<ul style="list-style-type: none"> 日本における健康水準の変化 日本における疾病構造の変化とその要因 健康に関する考え方 健康の成り立ちに関わる様々な要因 ヘルスプロモーションの考え方 健康を守り、育てる環境 意思決定・行動選択と健康との関係 よりよい意思決定・行動選択の方法 時代や地域で変化する感染症 現在、特に問題となっている感染症 	定期考査	定期考査	行動観察
5			ノート	ノート	ノート
6			ワークシート	ワークシート	ワークシート
7					

	6. 感染症の予防	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防の三原則 ・現代の感染症の発生予防とまん延防止のための対策 			
--	-----------	--	--	--	--

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
9 . 10 . 11 . 12	7. 性感染症・エイズとその予防	<ul style="list-style-type: none"> ・性感染症・エイズとは ・性感染症・エイズを予防するための対策 	定期考査 ノート ワークシ	定期考査 ノート ワークシ	行動観察 ノート ワークシ
	8. 生活習慣病の予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣病とは ・生活習慣病の予防と回復のための取り組み 	ー	ー	ー
	9. 身体活動・運動と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・身体活動・運動と健康の関係 ・身体活動・運動の実践と社会環境の整備 			
	10. 食事と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・食事と健康の密接な関係 ・健康的な食生活の実践と社会環境の整備 			
	11. 休養・睡眠と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・休養・睡眠と健康の関係 ・健康づくりのための休養・睡眠の確保 			
	12. がんの予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの予防と治療 ・がんに関する社会的な取り組み 			
	13. 喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙による健康影響 ・喫煙を開始する様々な要因と依存性 ・たばこ問題への対策 			
	14. 飲酒と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒による健康影響や社会問題 ・飲酒を開始する様々な要因と依存性 ・不適切な飲酒を防止するための対策 			
	15. 薬物乱用と健康	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用による健康影響と社会問題 ・薬物乱用を開始する様々な要因 ・薬物乱用を防止するための対策 			
	16. 精神疾患の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患とはどのようなものか ・主な精神疾患とその特徴 			
	17. 精神疾患への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・心の不調の早期発見とセルフケア ・自分だけで悩まず助けを求めることの大切さ ・心の健康社会の実現を目指して 			

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
1 . 2 . 3	【安全な社会生活】		定期考査	定期考査	行動観察
	1. 事故の現状と発生要因	・ 事故とその被害	ノート	ノート	ノート
	2. 交通事故防止の取り組み	・ 事故の発生に関連する要因 ・ 交通事故防止のための取り組み ・ 交通事故を起こした場合の責任と補償	ワークシート	ワークシート	ワークシート
	3. 安全な社会の形成	・ 自他の安全を確保する行動 ・ 安全を確保する社会の取り組み			
	4. 応急手当の意義と救急医療体制	・ 応急手当の意義 ・ 救急医療体制の仕組み			
	5. 心肺蘇生法	・ 心肺蘇生法の意義 ・ 心肺蘇生法の行い方			
	6. 日常的な応急手当	・ 日常的なけがの応急手当 ・ 熱中症の予防と応急手当			

担当者からのメッセージ

現代社会のグローバル化や科学技術の発展により、健康の捉え方や健康課題は変化してきたことを理解し、それらへの対策を個人で、あるいは社会として、できることを考えよう。また、安全な社会生活を送るために、事故やけがの発生メカニズムや発生リスクを減らす方法を理解し、それらに対処する方法を考えよう。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[家庭] 科

科目名	家庭基礎		学年	類型・コース	単位数
			1	普通	2
学習の目標	生活の営みに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい社会の構築に向け、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。				
使用教材	教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）			
	副教材	家庭基礎学習ノート（東京書籍）			
評価	評価法	定期考査、課題やワークシートの取組状況および提出状況、振り返りシートをもとに評価する。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それらに係る技能を身につけている。	
		2	思考・判断・表現	生活の中の課題に対し、解決策の構想、実践、評価・改善を行い、その考察を論理的に表現する力を身につけている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	周囲の人と協働し、課題解決に向けて主体的に取り組み、振り返って改善するなどして、自分や家庭、地域の生活をよりよくしようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A, B, Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> これまでの自分を客観的に振り返りながら、自身のライフプランを描く。 社会制度としての家族や、関わる法律を理解する。 誰もがよりよい生活を創造するための方法を考える。 	期末考査	期末考査 ワークシート	振り返りシート
5	第3章 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> 性と生殖に関する事柄、子どもの発達や生活習慣について理解する。 実習を通して、子どもや子育てに対する理解を深める。 子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて、課題を把握しその解決策を考える。 	期末考査 作品	期末考査 ワークシート	実習レポート
6 7	第4章 超高齢社会を共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> 超高齢社会の背景や、加齢に伴う心身の変化、高齢期を支える社会の仕組みについて理解する。 高齢者の自立を支えるために、私たちにできる適切な支援について考える。 	期末考査	期末考査 ワークシート	振り返りシート

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
7	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 (夏季休業中課題)	・自身の生活の中から課題を設定し、解決法を考え、計画を立てて実践する。 ・実践内容および考察をレポートにまとめ、発表する。		レポート 発表	自己評価 相互評価
8					
9	第5章 共に生き、共に支える	・生活を支える福祉について、社会保障制度や支え合いの構造を理解する。 ・誰もが安心して暮らせる社会に向けた、個人や地域の役割について考える。	期末考査	期末考査 ワークシート	振り返り シート
	第6章 食生活をつくる	・食生活の課題や栄養素の機能について理解し、食品の選択・保存についての知識を身につける。 ・実習を通して、食生活の自立に必要な知識と技能を身につける。 ・情報を適切に判断し、持続可能性という視点で食生活について考える。	期末考査	期末考査 ワークシート	実習レポ ート
10					
11	第7章 衣生活をつくる	・被服の役割や性能、適切な手入れや管理の方法などについて理解する。 ・実習を通して、衣生活の自立に必要な知識と技能を身につける。	期末考査 作品	期末考査 ワークシート	実習レポ ート
12					

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
12	第7章 衣生活をつくる	・資源の消費という視点で自身の衣生活を見直す。	学年末考査	学年末考査 ワークシート	振り返り シート
1	第8章 住生活をつくる	・住居の機能と環境性能、世界や日本の住文化について理解する。 ・地域コミュニティや街づくりも含めた、持続可能な住生活について考える。	学年末考査	学年末考査 ワークシート	振り返り シート
2	第9章 経済生活を営む	・契約の重要性や消費者の権利と責任、消費者保護制度について理解する。 ・収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解する。 ・家庭と地域経済、国民経済、国際経済のつながりを理解し、持続可能な経済成長について考える。	学年末考査	学年末考査 ワークシート	振り返り シート
3	第10章 持続可能な生活を営む	・持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。		ワークシート	振り返り シート
	第11章 これからの生活を創造する	・自分らしい生活と持続可能な社会の両立に向け、自身に出来ることを考えながら生活設計ができるようになる。		ワークシート	

担当者からのメッセージ

家庭科では、生涯を見通して、生活を主体的に営むために必要な知識と技能を習得することを目指します。学習内容と自らの生活とを結び付けながら、自身の生活における課題を発見し、よりよく生きるためにはどうしたら良いかを考え、実践しましょう。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[家庭] 科

科目名	家庭基礎		学年	類型・コース	単位数
			1	GS	1
学習の目標	生活の営みに関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい社会の構築に向け、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する。				
使用教材	教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）			
	副教材	家庭基礎学習ノート（東京書籍）			
評価	評価法	定期考査、課題やワークシートの取組状況および提出状況、振り返りシートをもとに評価する。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解し、それらに係る技能を身につけている。	
		2	思考・判断・表現	生活の中の課題に対し、解決策の構想、実践、評価・改善を行い、その考察を論理的に表現する力を身につけている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	周囲の人と協働し、課題解決に向けて主体的に取り組み、振り返って改善するなどして、自分や家庭、地域の生活をよりよくしようとしている。	
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価（A, B, Cの3段階）および評定（1～5の5段階）にまとめます。				

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4	第1章 生涯を見通す 第2章 人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> これまでの自分を客観的に振り返りながら、自身のライフプランを描く。 社会制度としての家族や、関わる法律を理解する。 誰もがよりよい生活を創造するための方法を考える。 	期末考査	期末考査 ワークシート	振り返り シート
5	第3章 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> 性と生殖に関する事柄、子どもの発達や生活習慣について理解する。 実習を通して、子どもや子育てに対する理解を深める。 子どもが健やかに育つ社会の実現に向けて、課題を把握しその解決策を考える。 	期末考査 作品	期末考査 ワークシート	実習レポ ート
6 7	第4章 超高齢社会を共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> 超高齢社会の背景や、加齢に伴う心身の変化、高齢期を支える社会の仕組みについて理解する。 高齢者の自立を支えるために、私たちにできる適切な支援について考える。 	期末考査	期末考査 ワークシート	振り返り シート

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
7	ホームプロジェクトと学	<ul style="list-style-type: none"> 自身の生活の中から課題を設定し、解決法を考え、計画を立てて実践する。 実践内容および考察をレポートにまとめ、発表する。 		レポート発表	自己評価 相互評価
8	校家庭クラブ活動 (夏季休業中課題)				
9	第5章 共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> 生活を支える福祉について、社会保障制度や支え合いの構造を理解する。 誰もが安心して暮らせる社会に向けた、個人や地域の役割について考える。 	期末考査	期末考査 ワークシート	振り返り シート
	第6章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 食生活の課題や栄養素の機能について理解し、食品の選択・保存についての知識を身につける。 実習を通して、食生活の自立に必要な知識と技能を身につける。 情報を適切に判断し、持続可能性という視点で食生活について考える。 	期末考査	期末考査 ワークシート	実習レポ ート
10					
11	第7章	<ul style="list-style-type: none"> 被服の役割や性能、適切な手入れや管理の方法などについて理解する。 実習を通して、衣生活の自立に必要な知識と技能を身につける。 	期末考査 作品	期末考査 ワークシート	実習レポ ート
12	衣生活をつくる				

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
12	第7章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 資源の消費という視点で自身の衣生活を見直す。 	学年末考査	学年末考査 ワークシート	振り返り シート
1	第8章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 住居の機能と環境性能、世界や日本の住文化について理解する。 地域コミュニティや街づくりも含めた、持続可能な住生活について考える。 	学年末考査	学年末考査 ワークシート	振り返り シート
2	第9章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> 契約の重要性や消費者の権利と責任、消費者保護制度について理解する。 収支バランスの重要性とともに、リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解する。 家庭と地域経済、国民経済、国際経済のつながりを理解し、持続可能な経済成長について考える。 	学年末考査	学年末考査 ワークシート	振り返り シート
3	第10章 持続可能な生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 		ワークシート	振り返り シート
	第11章 これからの生活を創造する	<ul style="list-style-type: none"> 自分らしい生活と持続可能な社会の両立に向け、自身に出来ることを考えながら生活設計ができるようになる。 		ワークシート	

担当者からのメッセージ

家庭科では、生涯を見通して、生活を主体的に営むために必要な知識と技能を習得することを目指します。学習内容と自らの生活とを結び付けながら、自身の生活における課題を発見し、よりよく生きるためにはどうしたら良いかを考え、実践しましょう。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[情報] 科(GS)

科目名	GS 情報		学年	類型・コース	単位数
			1	全	1
学習の目標	国際的な視野に立ち、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。				
使用教材	教科書	高等学校情報 I (数研出版)			
	副教材	サポートノート情報 I (数研出版) 30 時間でマスター Office2016 (実教出版) 情報モラル テーマ 21 (東京書籍) 情報 I 演習問題集 (数研出版)			
評価	評価法	期末考査、実習課題の評価、サポートノートの取組状況、単元ごとの振り返りなどで評価する。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	
		2	思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。	
上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、学期末・学年末に観点別学習状況の評価 (A, B, C の 3 段階) および評定 (1 ~ 5 の 5 段階) にまとめます。					

【1 学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点 1	観点 2	観点 3
4 5	情報とメディア 実習 : Word	情報やメディアの特性を踏まえ、情報技術が人や社会に果たす役割と影響について理解する。 課題研究のための Word 実習	期末考査 実習課題	期末考査 実習課題	提出物 (ノート・振り返りシート)
6 7	情報社会における法とセキュリティ	情報モラルなどについて理解し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決していく力を養い、望ましい情報社会の構築に寄与する力を養う。	期末考査 実習課題	期末考査 実習課題	提出物 (ノート・振り返りシート)

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
7 8 9	情報技術が社会に及ぼす影響	情報社会における問題の発見・解決に情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとする態度、情報モラルなどに配慮して情報社会に主体的に参画しようとする態度を養う。	期末考査 実習課題	期末考査 実習課題	提出物 (ノート・振り返りシート)
10 11 12	情報のデジタル表現	情報の科学的な見方・考え方を働かせて、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する学習活動を通して、問題を発見・解決する方法を理解する。	期末考査 実習課題	期末考査 実習課題	提出物 (ノート・振り返りシート)

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
12 1	コミュニケーション手段の発達と特徴	メディアの特性やコミュニケーション手段の特徴について科学的に理解する。また、情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとする態度を養う。	学年末考査 実習課題	学年末考査 実習課題	提出物 (ノート・振り返りシート)
2 3	情報デザイン	効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し、コンテンツを表現し、評価し改善する力を養い、情報社会に主体的に参画する態度を養う。	学年末考査 実習課題	学年末考査 実習課題	提出物 (ノート・振り返りシート)

担当者からのメッセージ

情報社会を生きるために必要なスキルを、実習を通じて身につけよう。
 情報嫌いにならないよう、皆さんの興味・関心を引くように、教材や内容について工夫します。
 普段の生活と、情報の授業を結びつけながら理解するようにしてください。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[GS]

科目名	Advanced Research I		学年	類型・コース	単位数
			1	GS	2
学習の目標	現代における諸課題を探究し、イノベーティブなグローバル人材に必要な基礎力の育成を図りながら、第2学年にて実施する「Advanced GS 課題研究」に繋がる研究力の素地を育む。				
使用教材	教科書	特になし			
	副教材	『課題研究メソッド』（啓林館）			
評価	評価法	レポート、プレゼンテーションの取組状況および提出状況などで評価する。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	国際社会に関わる探究の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけるとともに、国際社会の特徴やよさに気づき、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気づいている。	
		2	思考・判断・表現	国際社会と自分自身との関わりから問いを見だし、その解決に向けて仮説を立てたり、調査して得た情報を基に分析したりする力を身に付けるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身に付けている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	国際社会に関わる探究活動に主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとしている。	
※評価の示し方については、文部科学省推進「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」カリキュラム開発拠点校に係る特例に基づく独自の方法を調整中。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4	・GSがイタンスI ・Major Minor リサーチ	・GS コースにて3年間行う事業についてのガイダンス ・専門性を深めたい2分野を定め、探究活動を行い学問分野の深い理解につなげる。	レポート	レポート	レポート
5	・Major Minor リサーチ ・海外連携事業I	・生徒自身が定めたMajor Minorの分野のグループやクラスでプレゼンテーションを行う。 ・海外連携校(PMS, ASCなど)の生徒との交流	レポート プレゼンテーション	レポート プレゼンテーション	レポート プレゼンテーション
6	・イノベーション講座 ・海外連携事業II	・イノベーション力の育成に繋がる大学および企業の研究者からの講演など ・海外連携校(PMS, ASCなど)の生徒との交流	レポート	レポート	レポート

7	<ul style="list-style-type: none"> ・GS テーマサイエンス課題研究(~2月) ・World View(~2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ設定を行い課題研究活動(テーマはサイエンス国際フォーラムを見据えて行う) ・環境問題、社会問題などの世界での状況を他の国の高校生と議論する。 	レポート	レポート	レポート
---	---	---	------	------	------

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
7 ~ 9	<ul style="list-style-type: none"> ・GS テーマサイエンス課題研究 ・World View ・イノベーション力講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究活動 ・他の国の情報収集活動とディスカッション ・社会課題を発見し解決するための柔軟な発想力などを育むための講演会やディスカッション 	レポート	レポート	レポート
10	<ul style="list-style-type: none"> ・海外連携事業Ⅲ ・グローバルセミナーⅠ 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外連携校(PMS, ASC など)の生徒との交流 ・グローバル企業や国際機関で働いている人の講演など 	レポート	レポート	レポート
11 12	<ul style="list-style-type: none"> ・GS テーマサイエンス課題研究 ・World View 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究活動 ・他の国の情報収集活動とディスカッション 	レポート	レポート	レポート

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
12	<ul style="list-style-type: none"> ・GS テーマサイエンス課題研究 ・World View 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究活動 ・他の国の情報収集活動とディスカッション 	レポート プレゼン テーション	レポー プレゼン テーション	レポート プレゼン テーション
1	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルセミナーⅡ ・GS 基礎課題研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル企業や国際機関で働いている人の講演など ・サイエンス国際フォーラムに向けて準備 	レポート	レポート	レポート
2	<ul style="list-style-type: none"> ・GS テーマサイエンス課題研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンス国際フォーラムに向けて準備 ・English Enhancement Seminar 	レポート	レポート	レポート
3	<ul style="list-style-type: none"> ・GS テーマサイエンス課題研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・English Enhancement Seminar ・サイエンス国際フォーラムにて議論 	レポート	レポート	レポート

担当者からのメッセージ

世界的な課題に係る探究活動では、国際的な観点から事象を捉えたり、SDGsのように世界共通のテーマについて考えたりする姿勢が大切です。そして、論理的思考に基づいて、主体的・科学的に探究する力（探究力）、情報を収集し、正確に読み解く力（分析力）、高いコミュニケーション力や語学力を生かし、コラボレーションする力（協働力）を養い、新たな価値を生み出しそれを発信する力（イノベーション力）を身につけましょう。

令和7年度シラバス

滋賀県立彦根東高等学校

[GS]

科目名	Integrate I		学年	類型・コース	単位数
			1	GS	1
学習の目標	教科融合授業や現地研修などを実施することを通し、現代社会の課題などを解決するために必要な総合的な学力の育成を図り、文理の枠を越えた、様々な角度から物事を捉える姿勢を養う。				
使用教材	教科書	特になし			
	副教材	学校が作成する自主教材			
評価	評価法	課題、レポートの取組状況および提出状況などで評価する。			
	評価観点の趣旨	1	知識・技能	世界的な課題やさまざまな事象について、様々な分野の知識や技能を身に付けている。	
		2	思考・判断・表現	世界的な課題やさまざまな事象を俯瞰的に捉え、多角的に分析し、その結果を論理的にまとめ、表現する力を身に付けている。	
		3	主体的に学習に取り組む態度	世界的な課題の解決に向けて、主体的・協働的に取り組もうとしているとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとしている。	
※評価の示し方については、文部科学省推進「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」カリキュラム開発拠点校に係る特例に基づく独自の方法を調整中。					

【1学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
4 ～ 8	①教科融合授業 I ・事前学習 ・教科融合授業 I 「プラスチック」(予定) ・事後学習 ②京都大学研修 (防災研究所・エネルギー理工学研究所) ・事前学習 ・現地研修 ・事後学習		課題	課題	課題
			レポート	レポート	レポート

【2学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
9 ～ 12		①教科融合授業Ⅱ ・事前学習 ・教科融合授業Ⅱ「フェイク・チェック」(予定) ・事後学習 ②関西研修(関西学院大学、神戸学院大学など) ・事前学習 ・現地研修 ・事後学習	課題 レポート	課題 レポート	課題 レポート

【3学期】

月	学習項目・単元	学習内容	評価記録		
			観点1	観点2	観点3
1 ～ 3		①教科融合授業Ⅲ ・事前学習 ・教科融合授業Ⅲ「時間を多角的に考察する」(予定) ・事後学習 ②裁判所研修(大津地方裁判所、予定) ・事前学習 ・現地研修 ・事後学習 ③IntegrateⅡへ ・課題研究テーマの探索	課題 レポート	課題 レポート	課題 レポート

担当者からのメッセージ

“Integrate”には、「統合する」「まとめる」という意味があります。
 SDGsのように世界共通のテーマに対しては、偏った情報やステレオタイプの固定観念にとらわれず、文理の枠を越えて、様々な角度から物事を捉える姿勢が必要です。
 この授業では、このような姿勢をもち、統合的に世界的テーマを扱う力を身につけていってほしいと思います。